

## 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十五の本文の位置づけ

中 根 千 絵

### はじめに

論者は、『説林』五三号において、彦根城博物館所蔵『今昔物語』（全巻、表紙の題は『今昔物語』と書いてあるが、内題には『今昔物語集』とある。）の紹介を行ったが、その際、本の空白部分の分析、流布本系共通脱文の分析から、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、内閣文庫本Bに近い流布本系の本であり、内閣文庫本Bより良い本であろうと論じた<sup>1)</sup>。しかし、その位置づけが正しいかどうかは、諸本との一語一語の比較を経て、初めて、立証されるものである。

巻一については、先に論集で分析を行い、彦根城博物館本は内閣文庫本Bとのみ一致する箇所が多く、これは、『説林』五三号で論じたのと同じ傾向であるが、旧日本古典文学大系の底本である東大本甲や東大本、野村本とのみ一致する箇所もあり、彦根城博物館所蔵『今昔物語』は、流布本系諸本（内閣文庫本ABC、東大本乙）と古本系諸本（東大本甲、東大本、野村本）の間の状態を有する希有な本である<sup>2)</sup>ことを述べた。巻二、巻五、巻七、巻九の場合は、鈴鹿本という原本に近い本が残っているせい<sup>3)</sup>か、古態を残すとされる東大本甲、東大本、野村本と一致する箇所は非常に少ないという結果が得られた。但し、巻五、巻七では全体として、流布本系の諸本と表記が一致するにも関わらず、固有名詞等については、古本系諸本に依っており、これは巻四と同じである<sup>4)</sup>。巻三・巻六・巻十では、特に、野村本が流布本系と古本系との狭間で揺れている様を見てとることができた。また、様々な要件から、流布本系は、校訂

本文を目指した書物群ではなかったかと推測した。但し、彦根本のように、中間的な表記を有する書物の場合には、いまだ、そのどちらとも見定めがたいとし、今後、さらに、巻ごとの分析を続け、彦根本の性格を見極めると共に、古態本と流布本の総合的な分析を行っていきたいとした。<sup>5)</sup> 巻四の場合に顕著な傾向として現れるのは、古本系との一致度が高く、内閣文庫本Bとの一致度は低いことである。これまで、彦根城博物館本は古態本と流布本の中間的な本として位置づけてきたが、巻四にいたって、古態本の表記を有することが判明したことにより、改めて、彦根本の位置づけを考えてみなければならぬこととなった。<sup>6)</sup> また、巻十一・巻十二では内閣文庫本Bにおいて、出典等による補入がある部分については、その表現は一致しない。こうしたことから、彦根城博物館本は、内閣文庫本Bより前に成立した写本である可能性が高いと考えた。<sup>7)</sup> 巻十二の分析においては、さらに、内閣文庫本B、Cおよび野村本は校訂本文を指した書物であることを明らかとした。また、巻十二においては、彦根城博物館本のみが最も古い鈴木鹿本の表記の一部を残していることも指摘した。<sup>8)</sup> 巻十三では、古態を残すとされる東大本甲、東北大本、実践女子大本、國學院大本と一致する箇所は多くないという結果が得られた一方、B本のみと重なる箇所も見られなかった。代わりに、東大本乙が古本系と表現が一致する場合、流布本系と表現が一致する場合の両方において、彦根本と一致する箇所が多いことが認められた。両本の表現の全てが一致するわけではないので、直接の書承関係があるとはいえないものの、彦根本が乙本と同系統の本文を引き写した可能性、あるいは、その逆の可能性を指摘した。また、固有名詞について、底本である東大本甲では、「欠驗記ニ依テ補フ」という朱傍があり、古本系とされる実践女子大本、國學院大本は、同じ固有名詞を記しているが、流布本系の乙本、A本、B本、C本、また、彦根本も、欠を補わず、□としている。このことから、古本系においても校訂がなされないわけではないことが明らかとなった。<sup>9)</sup> 巻十四においても古本系とされる実践女子大本、國學院大本、野村本が校訂本文を目指した本であることを指摘した。<sup>10)</sup>

巻十五についても引き続き、彦根城博物館所蔵『今昔物語』の本文を他の諸本と比較することにより、彦根博物館所蔵『今昔物語』巻十四の位置づけを試みることにしたい。但し、諸本の収集は、いまだ、その途上にあり、旧日本古典

文学大系『今昔物語集』の校異と頭注から必要な部分を抜き出す形で、諸本との比較を行うこととする。

### 彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十五の本文異同

凡例

一番上の段は旧日本古典文学大系のページと行、次の段は彦根城博物館所蔵本の本文、次の段は彦根城博物館所蔵本と同じ本文を持つ本の種類である。(但し、異体字などの字形が異なるものについてはこれに含め、その都度指摘した。)★印は彦根城博物館所蔵本独自の部分であり、その部分については諸本の例を示した。旧日本古典文学大系に載る考察は必要にに応じて「」に入れて付した。

各本の略語は次の通りである。

底―旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本(東大本甲) 【旧日本古典文学大系『今昔物語集』の底本が現在の諸本のうちの古態本にあたりと考えられることから、底の字を使うことで、それが一見して明らかとなるようにした。】  
北―東北大本 実―実践女子大本 国―國學院大本 野―野村本 以上、古本 乙―東大本乙 A―内閣文庫本A  
B―内閣文庫本B C―内閣文庫本C 以上流布本 彦―彦根城博物館所蔵本  
大―旧日本古典文学大系

巻十五目録

三四七 尋静(第八)

諸(底北美国野乙の尋は異体の変、底北は正字を朱傍)

僧祐(第十八)

野乙B(A C以外の祐は旁の口をムに作る、彦も)

第卅四(第三四) 乙ABC  
 流尼(第四一) 乙ABC  
 造悪業人(第四七) ABC

卷十五第一話

- 三四八 5 学問ヲハ不為ス 乙B  
 9 頼光ヲ生タラン B  
 10 庄嚴微妙ニシテ 底北実国野AC  
 11 □依テ 諸大 北・B両本は「知ント願(フ)ニ」と朱補。  
 12 所居ニ□ 諸大 北・B両本は「アラス(ト)」と朱補。  
 12 知光 「智光」大  
 13 何ソ可返キ 乙AB 「何ノ可返キ」底北実国野(北のノ可は変)「何ソ可返」  
 14 生ノリ時 実国乙B  
 14 无カリ 国乙ABC  
 15 披テ見テ B  
 16 向フ威儀ノ中ニ 乙ABC 「向ノ威儀ノ中ニ」底(向と朱傍)「何威儀ノ中ニ」北「四ノ威儀ノ中ニ」  
 17 学シテ 実国野大  
 乙ABC (乙ABCは學)「覺シテ」底北実国野大  
 乙ABC (乙の保は変)「係テ」底北実国野大

三四九 11 保テ

巻十五第二話

三四九 17 者アツテ

諸大「アリテ」乙

三五〇 1 佛経ヲ儲テ

諸（Bの儲は変）

1 請シ下シタテ

乙 A B C

8 成ラムト志

乙 A B C

11 □ 随テ

諸大

13 此ノ人本ヨリ

実国野乙 A B

14 其ノ童

乙 A B

14 西ニ向テ

乙 A B C

16 見聞ク人

北実国野 A B 「見聞ヒト」乙「見聞テ人」底大 Cは脱

巻十五第三話

三五一 7 飲食

諸大 諸本かく作るが、北・B両本の朱傍、「飲食」

15 疑ヒ无シトナリ

北実国野乙 A B 「疑ヒ無トナリ」C 「疑ヒ无シトナソ」底大

巻十五第四話

三五二 3 □ ト云フ人

諸大

4 別當トテ

諸大 トテはトシテの意。

14 此ヲ聞テ

底乙 A B C

14 忿テ

底乙

卷十五第五話

- 15 真ノ鐘 諸大
- 16 失ニケリ 乙ABC
- 17 往生シタル房 乙ABC

三五三 10

□我カ師

諸大

- 10 不齊食終シテ

乙AC

- 14 可令シト

乙B

- 15 弟子ノ

諸大 諸本かく作る。

- 16 備テ

ABC

三五四 5

房ニ

乙ABC

- 5 詣ヌ

北美国乙AC大「詣ヌ」底野B（底はヌと朱訂）

- 5 末タ不返サル程ニ

大 北本は「二所へ」の下に、「行テ」、B本は「末ダ」の下に「行」を朱補。

- 6 貴ム

諸大

卷十五第六話

三五四 14

覆ヒ隠スト云ヘトモ

乙ABC（乙ABCは覆）「覆ヒ隠ス云ヘドモ」底北美国野大（北の覆は変）

- 16 念佛ヲ

諸大 諸本かく作る。

- 17 有□

諸大

三五五 4

跡ノ

「断」古本大 流布本中乙・Aの二本の旁は「片」の古体、BC二本は「行」。

6 輦有り

北乙 A B

7 圍遶シテ前後

諸 (乙 B の圍は変)

8 随テ□

諸大

11 聞テ人

乙 A B C

巻十五第七話

三五六 2 僧

乙 A B C

5 不貯スシ

諸大 「不貯シ」 A 「不貯」 C

6 若時

乙 A B C 「若□時」 底北実国野大

9 起居ス

野 A B C

巻十五第八話

三五七 5 来ル毎ニ

乙 A B C

5 飯念ヲ

諸 (底は食敷と朱傍) 「飯食ヲ」 北大

5 十餘ヶ年ノ

北 B (B の十餘は変)

11 輦ヲ

底北野乙 A B C 大 (底は輦と朱傍) 「輦ヲ」 実国

14 今明

諸大

巻十五第九話

三五八 5 有リテ

諸大

- |         |          |                              |
|---------|----------|------------------------------|
| 6       | □ト云フ人    | 諸大                           |
| 6       | 法文ヲ学テ    | 諸(諸は學)「法文ニ學テ」底大              |
| 7       | 聞キ見      | 乙ABC                         |
| 13      | 幾ニ       | 諸大 北本の朱傍「モ」                  |
| 14      | 年明ケテ     | 野乙AC                         |
| 14      | 成ヌ       | 諸                            |
| 卷十五第十話  |          |                              |
| 三五九     | 山ノ□ニ     | 諸大                           |
| 9       | 俗姓ハ      | 乙ABC「俗性」底(姓と朱傍)「浴往」実国野「俗姓」北大 |
| 10      | □ト云人     | 諸大                           |
| 13      | 遠クヨリ現セリ  | 北実国野乙AB                      |
| 三六〇     | 3 請シツル所ノ | 乙ABC「請シル所ノ」底北実国野大            |
| 4       | 明清カ命終ラムト | 乙ABC                         |
| 卷十五第十一話 |          |                              |
| 三六〇     | 11 俗姓ハ一氏 | ★「俗姓ハ□ノ氏」諸大                  |
| 12      | 住鏡       | 乙ABC「住鏡」底実国野(仁敷と傍書)「仁鏡」北大    |
| 15      | 行テソ      | 北実国乙ABC                      |
| 17      | □トニリ     | 「□トニ」AC「□トニゾ」底北実国野大          |



三六一 1 道心□ケレ

底北実国野乙B大「道心□ケム」AC

2 幾ノ程ヲ

底北実国野

7 乗テ

大 底・北二本の字体は、「垂」の古体。

7 往ヌル也ト

AC

8 此ノ事ヲ

底乙AB

巻十五第十二話

三六一 14 □氏

諸大

三六二 5 死ナムスト云テ

B

7 貴クシテ

諸(底実の貴は変 生十貝に作る)

8 乗

大 古本の字体は、「垂」の字体。

11 人語ケレハ

乙AB

巻十五第十三話

三六二 14 第十二

「第十三」大

17 源祐内供

諸(底は源に淳敷と朱傍)「淳祐内供」北大

北本によりて訂。

三六三 4 金剛ノ印

野B(彦Bの印契は変)「金剛□ノ印契」底北実国乙AC大

4 弟子共ニ告テ云ク

乙ABC大「弟子共ニ失ニ告テ云ク」底北実国野(失は異体、底は衍敷と朱注)

7 念佛ヲ唱ヘテ

北野乙ABC「念佛ツ唱ヘテ」底実国大

7 失ニケリ

諸大（彦北実国野の失は異体）

卷十五第十四話

三六四 1 我レハ

乙 A B

3 衣ヲ着テ

諸

4 内着シ籠テ

北乙 A B C

8 此ノ末ニモ

乙 A B

卷十五第十五話

三六四 12 名社律師

諸（底は社に祐敷と朱傍）「名社律師」大

13 道ニ

諸大「道ヲ」北

16 行テ見ルニ

諸「行キ見ルニ」底大

17 行ケルニカト

B

17 行カメ

野 A B 大「行カタ」乙「行」C「行カヌ」底北実国（底はヌにメ敷と朱傍）

三六五 1 不拈スシテ

北実国野乙 B（Bの拈は変）

1 无ケレハ

大 北本は「有イ」と朱傍。

1 此等ヲハ

底野乙 A B C

2 取り置テコソ

北実乙 A B C 大「取り置キコソ」底

6 成

乙 A B C

9 着シ分チ

乙 A C

- |       |                                                       |                                       |
|-------|-------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 10    | 追ヒ喰ル                                                  | 北実国野乙 A B                             |
| 13    | 裏畧ニテ                                                  | 乙 B                                   |
| 13    | 搦ケ懸タルカ                                                | 乙 B (Bは変)                             |
| 14    | 足ニ                                                    | 乙 A B C                               |
| 三六六 2 | 澆テ立リ                                                  | 北乙 A C 大「澆テ立ツ」実国野「澆テ立ク」B「澆テ立リ」底(澆と朱傍) |
| 3     | 居給ヒツレナト                                               | 実国野乙 A B C                            |
| 3     | 騒キ喰ル事                                                 | 乙 A B C                               |
| 5     | 疾登給ヘト                                                 | 北乙 A B C                              |
| 5     | 延ニ脱キ置テ                                                | 実国野乙 A B C (乙 A Bは裏に作る、彦 Bの延は変)       |
| 8     | 此ク                                                    | 実国野乙 A B                              |
| 10    | 手足駄ヲ                                                  | 底北実国野 A C                             |
| 13    | 其二對面シツレハ                                              | 乙 A B                                 |
| 13    | 不用ニシケレハ                                               | 諸大「不用マジケレバ」実国                         |
| 三六七 1 | 此ノ国ニ                                                  | A B (A Bは國)                           |
| 4     | 讚岐国阿波土佐国マテ乙 A B C (乙の佐は左、乙 A B Cは國)「讚岐阿波土佐ノ國ニテ」底北実国野大 |                                       |
| 4     | 聞キ繼テ                                                  | 底北実国野乙                                |
| 7     | 導ムカ為ニ                                                 | 諸                                     |

卷十五第十六話

三六七 11 千観内供

諸(底の供は変 旁を矢の異体にする)

12 山□□ニ

「山ノ□□ニ」大 諸本欠字。

13 心至テ

乙ABC

16 □□ト云フ人

諸大

三六八 1 老小

大「老少」AC 「都鄙老少以為口実」極楽記

4 八車ノ

諸大 「以八事而誠徒衆」極楽記

4 可翔キ

底北美国AB (底Bの翔は変 底の旁は月、翔と朱傍)

12 彼ノ女ノ夢ニ

北美国野乙AB 「彼女ノ夢ニ」C 「彼女ノ夢ニ」底大

13 示セト

実国野乙B

卷十五第十七話

三六九 1 山林ヲ参リ

底乙B (底はヲにへと朱傍)

6 而ル間

乙AC 「而間」B 「而ルニ間」底北美国野大 (底はニに无と朱注)  
「流布本は「而ルニ」と「而ル間」との混淆であろう。」

卷十五第十八話

三六九 14 幡磨

古本A 「播磨」流布本

14 賀古ノ郡

野AC大「賀吉ノ郡」底北美国乙B (底は古敷と朱傍)

16 例ニ

諸 (底実国の例は変 旁を別に作る、底は例敷と朱傍)

三七〇 1 何ソノ車

諸 北本は「ノ」の下に「車ソトイ」と朱補。

1 此ク車ハ

底実国AB

巻十五第十九話

1 来レハ所ノ  
乙ABC  
9 増祐  
流布本「僧祐」古本大

三七一 1 勤メトメ

実国野乙ABC

5 所ヲハ

乙ABC

6 聖人宣ハク

ABC

6 一邊地也

北実国乙B

7 飛ヒ返ヌ

実国乙AB

9 心ヲ發メ

実国野乙ABC (実国野乙ABCは菝、Cはシテ)

10 至ニ

乙ABC

10 告ニケリ

AC

11 死ヌレハ

北実国乙AC

巻十五第二十話

三七一 16 信濃國

ABC「信乃國」大

三七二 2 身軀ニ沐浴セムト

諸大 北本は、加筆して「ヲ」と訂す。

6 不離ス

★「不離」AC「不離レヌ」底「不離レズ」北実国野乙大「不歸ス」B

7 堂ノ内ニ

乙ABC「當堂ノ内ニ」底北実国野大

9 不見エテ

実国野乙

- 11 貴ヒケリ A B C
- 15 不有シ 諸大
- 16 躰ヲ 乙 A B C

卷十五第二十一話

三七三 4 男子アリ

B 「男子有」 C 「男子有リ」 A 「男子有ケリ」 乙 「男子ナリ」 北 「男子ケリ」 底 実国野大

9 行キ見レハ

乙 A B

10 天衣寶ヲ

乙 A B C (乙 A B C は寶)

11 乗セテ

大 底本の字体は、「垂」の古体。

13 圍遶シテ

A C 「圍遶」大

14 呼ヒ出テ

「呼ヒ出」 古本大 「呼ヒ出シテ」 流布本

卷十五第二十二話

三七四 4 本ハ

乙 A B C

6 吉キ事ニ悲ヌ

A

8 世□□ト云フ

諸 「世□□云フ」 底大

8 形ヲ見テ

乙 A B C

8 一事ト必

実国野乙 A B C (C はシテ)

10 此レ盗人ヲ見テ

北 実国野乙 B

10 無レト  
16 難遁カリナムト

三七五 1 □云フ人ニ

諸大

北実国野乙AC（北実国野乙ACは無）  
実国野乙AC「難道カリナメト」底（道を遁と朱訂）「難道カリナムト」北「難遁ヒ  
リナムト」B「難遁カリナメト」

1 然<sup>サラハ</sup>

底国乙ABC（底はハを朱補）「サラハ」北「然バ」実野

3 髻ヲ

底本の字体は「髻」「髻」大

4 始メ置タル也

乙

7 見知ル人ノ

乙ABC

卷十五第二十三話

三七五 16 御文奉ラムト

諸大

三七六 3 告ク馴テソ

乙A（乙の馴は変）

3 此ノ事□

乙ABC

8 命終ラムヤト

野乙ABC

10 一鶏婁安ヲ

乙B「一鶏安ヲ」底実国A（底実国は、虫安に婁歟と傍書）「二鶏婁ヲ」北野C大  
底・実・国・Aの諸本、上字を鶏+虫、下字を「安」に作る。

13 交レテ

諸

14 待ツニ

底実国B

15 瘡ミタリケレハ

実国野乙A「瘡ミタリケレバ」底北大（底は瘡歟と朱傍）「瘡タリケレハ」C

三七七 2 事ナルハ

乙ABC「事ナルハ」底北実国野大

卷十五第二十四話

三七七 6 観音寺ト

乙ABC

9 今六月許ニ

底実国野乙B (底は月に日イと朱傍) 「今六日計ニ」C 「今六日許ニ」北A大

9 講ノ畢ラム日

北実国野ABC

10 云ヒケルヲ

北実国野乙AB

11 聖人ノ此世ニ

乙ABC 「聖人此ノ世ニ」野 「聖人ノ世ニ」此 底北実国 (底実国は此に顛倒符)

13 心地悪氣色ナルハ

ABC (ABCは氣) 「心地悪氣ナル氣色ナルハ」底北実国野大 「心地悪氣色ナレハ」乙

三七八 1 可値云ヘトモ

大 諸本「ト」なし。(北本は「ト」を朱補)。

4 今問ルニ

実国乙ABC

9 合テ

乙ABC (Bのテは変)

12 其ノ所ニ(脱) 普「其ノ所ニ」(行テ、其ノ講ヲ繼テ可行キ也トゾ思ユル。此レ、奇異ノ事ナル依テ、)

普ク」大

流布本は、一句全部を欠く。

卷十五第二十五話

三七九 1 嶋ノ郡ノ

諸

8 筏音ト也

「筏音ト也」乙ABC (彦乙の筏は変) 「筏ノ音ト也」底北実国野大 (筏は変 下部を

代に作る、彦も)

10 言ヲ信メ

諸(底の信シテは朱補、北実国は字間つめて補入)



12 語り傳へタルトヤ 実国野乙ABC

巻十五第二十六話

三七九 15 往生語第卅六 乙ABC

三八〇 5 極樂二往生ス 乙ABC

11 一人ノ音 乙ABC

14 無カリシ ABC (ABCは無)

16 委ク語ル委ク 乙AB

三八一 2 遂修リ貴 乙AB

巻十五第二十七話

三八一 9 不見エス 実国野乙B

10 髻オノカ 乙A「髻」C大 Bは欠字

13 菊テ 底本始め古本の字体は長×弟に作る。  
大 乙・B・C 三本以外かく作る。

15 此師ト 乙ABC

17 取力持来テ 乙ABC

三八二 2 畳タル 乙ABC

5 此レ奇異キ者 乙AB

7 可食キ物ノ AB

14 此ノ戸 乙 A B

卷十五第二十八話

三八三 10 □ ニシテ 諸大

15 敷ニ 底北実国乙(底は二にテと朱傍)

16 入ヌレハ 実国野乙 A B C

17 怖カシ 乙 A B

三八四 2 思ヒ不懸ヌ事也ト云テ実国野乙

8 香ヲ置 北国野乙 A B C

8 法華ノ懺法ヲ行ヒツ 底乙 A B C

10 此僧ニ侵 ★ 「此ノ僧ニ値ヌ」底北実国野乙(底北乙の値ヌは変、特に彦北乙は二字近接して

一字の如し、底は値ヌと朱傍) 「此僧ニ□」 B 「此僧ニ値」 A C 「此僧ニ値ヌ」大

15 某年其月其日 乙 B

三八五 6 夜暎クシ時ニ 乙 B

6 奇異マシト也ト 底野 A B C 大(底はマシトにマレトと朱傍) 「奇異ナレト也ト」北 「奇異マシト」北

「奇異□ト也ト」実国

卷十五第二十九話

三八五 15 山ノ□ニ

15 行ケルニ

乙 A B C 「山ノ□」底北実国野大

諸大 「行ナルニ」底

15 加賀國

北乙ABC大「賀加國」底実国野

16 □ノ郡

諸大

三八六 4 誦~~レ~~畢テ

乙ABC (乙ABCはシテ)

8 命終ナレト

実野乙ABC大「命終ナルト」底北国(底はナルにナレと朱傍)「命終ナレトモ」C

10 苦ニ

乙ABC

13 聳ソヒク

ABC

15 語ケルニ

乙B

16 善根ヲ修シテ

実国野乙ABC

巻十五第三十話

三八七 16 心ヲ至シ

乙ABC

三八八 4 年来ヲ経~~レ~~

★「年来ヲ経テ」北野乙ABC大「年来ヲ経ヲ」底(下のヲにテ歟と朱傍)「年来ヲ

経ヲ」実国

4 彼ノ

AC

6 契リ申シ事ナルハ

底乙ABC

8 此ノ事

乙A「此ノ事□」底北実国野大

巻十五第三十一話

三八八 13 □ト云ケリ

底国野大「□ノ□ト云ケリ」北実乙ABC

15 年ノ□ノ此

諸大

15 年□ニシテ 諸大

15 □ト云フ人ヲ 諸大

三八九 8 見タリケル 乙B

卷十五第三十二話

三八九 13 □ノ郷 諸大

13 俗ニシテ□ノ□ト「俗ニシテ□ト」大 諸本欠字。

北・実・及び流布本は、間に「ノ」を有す。

15 印佛性ヲ 諸大 「諸本かく作るが、極楽記の「兼修印、仏性多慈悲施心尤深」の句読を切り

誤ったもの。」

16 戌時許ヨリ 実国乙A

17 ユノ木ノ 乙AB 「ケ木ノ」底実国野大(竹歟と傍書) 「竹木ノ」北「コノ木ノ」C

三九〇 3 明ル朝 乙ABC

4 出来ケルヤト ABC

5 極楽ノ往生シケル 乙B 「極楽ニ往生シケル」AC 「極楽ヲ往生シケル」実国野 「極楽□往生シケル」北

「極楽ヲ□往生シケル」底(ヲみせけち 空格に接続符) 「極楽往生シケル」大

7 如此ハ 諸大

7 然レヲ 底北実国乙大 「然ルヲ」野ABC

巻十五第三十三話

三九〇 12 内匠頭適ト

北乙 A B C

14 悩ミ煩ケル

乙 A C

巻十五第三十四話

三九一 14 云ク正月ノ

乙 B

15 死宜ク成ヌレハ

乙 A B C 「死ナムトテ病宜ク成ヌルハ」国 「死ナムトテ病宜ク成ヌレバ」底北実野大

三九二 1 死ヌル

底北実野

2 馥ハシ

諸大

2 極熱ノ比ニテ

実野乙 A B C 「極熱ノ比ニテ」底北（底は樂みせけち）

巻十五第三十五話

三九二 13 發ニケレハ

諸（諸は菘）「菘ケレバ」底大

13 思深カリケレハ

諸大

14 許シ給ヒラムヤ

底北実野 B（底はラにテと朱傍）

16 菩提ヲ

底乙 B（底は願を補入）

三九三 2 令講テ

乙 A B C

12 貴クシ

諸大

卷十五第三十六話

三九三 17 □□ト云フ人ニ

諸大

三九四 2 失ニケリ

AB 「失ニケレリ」諸大 Cは脱

3 念々ニ

ABC

3 遂ニ出家シテ

北乙ABC大 「遂ニ極出家シテ」底実国野（極みせけち イ无と傍書）

6 極樂ニ往生セムト

諸「極樂往生セムト」底大

9 少シ病有テ

乙ABC

13 此レヲ

乙AB

13 語り傳ヘタルトヤ

実国野乙ABC

卷十五第三十七話

三九五 6 喜ヒテ貴ヒテ

実国野乙B大 「喜ヒテ貴ヒキ」底 「喜ヒテ貴テ」北 「喜ヒ貴ヒテ」A 「喜貴テ」C

8 呼フ

諸本により訂。

12 亦僧都ヲ

乙AB

12 呼ヒ寄せリ

乙ABC

12 今ノ菩薩

諸大

15 極樂ノ

諸大 北本の傍書「ゾ」

北実国野乙AC

巻十五第三十八話

三九六一 第卅六

2 上手ノ郷ニ

7 能スシテ

7 不知ヌ

9 心ノ願ヒ如ク

9 寫シ奉テ

10 往生シメハ

12 妹ノ女ハ亦

巻十五第三十九話

三九六 大和国

三九七 違ヒニケリ

7 思ヘシ也

9 被見ルニモ

10 参テ

11 哀レニ悲クテ

12 仰レム時ニ

14 努々メ

16 山籠ニ

「第卅八」大

★ 「上手郷ニ」 B 「上手ノ里ニ」 実国野乙 A C 「上平ノ郷ニ」 底北大

乙 A B C (Bの能は変)

実国野乙 B

底北実国野乙「心願ヒ如ク」 B 「心ノ願ヒノ如ク」 A 「心ノ願ノ如ク」 C

A B C (A B Cは寫)

A B C

乙 A B C 「妹ノ女亦」 底北実国野大

「大和国」諸 (彦底実国野乙 Bは國を円の如く作る)

乙 A B

乙 A B C

乙 A B

諸大

乙 A B

乙 A B C

実国野乙 (実国野乙は「努々メ」)

乙 A B C 「山籠ニテ」 底北実国野大

- |     |           |                   |
|-----|-----------|-------------------|
| 4   | 失ヌレハ      | 実国野乙AC 「失ヌレハ」底北B大 |
| 4   | 三百返許      | 乙AB               |
| 2   | 申シ給ヘヤト    | 諸大                |
| 2   | 念佛ハ       | 実国乙ABC            |
| 1   | 有ケルヤナト    | 乙AB               |
| 1   | 云思ツルニ     | 諸大                |
| 三九九 | トヨ        |                   |
| 1   | 値ヒ給フマシヤニヤ | 諸大「値ヒ給フマシヤトヨ」AC   |
| 14  | 怠キ寄テ      | 底北実国野乙            |
| 14  | 此ノ事ノ      | B                 |
| 13  | 思エナハ也ケリト  | 乙ABC (乙ACはエ)      |
| 11  | 書タヲ       | 乙ABC              |
| 11  | 疾ク        | 乙A                |
| 7   | 〇尅ニ成ヌレハ   | 乙ABC              |
| 7   | 然力我レ也ト    | 乙AB               |
| 5   | 然ハ        | 北ABC              |
| 5   | 成ニタルカ     | 底北実国野B            |
| 4   | 思エケレハ     | 実国野乙ABC           |
| 三九八 | 尼君ハ       | 乙ABC              |
| 17  | 戀シクカ      | 乙AB               |



|  |     |           |                      |
|--|-----|-----------|----------------------|
|  | 7   | 涙ヲ流テ横川ニハ  | B                    |
|  | 9   | 云テ        | 乙 A B C              |
|  |     | 卷十五第四十話   |                      |
|  | 三九  | 九 浄メテ     | A B                  |
|  | 16  |           |                      |
|  | 四〇〇 | 1 間       | 乙 A B C              |
|  | 1   | 1 我レハ     | B                    |
|  | 1   | 1 引撰セム為ニ  | 乙 A B C              |
|  | 5   | 5 月日ノ     | 底北野乙 A B C 大「月□日ノ」実国 |
|  |     | 卷十五第四十一話  |                      |
|  | 四〇〇 | 8 尼       | 底乙 B                 |
|  | 10  | 10 彼仕テ    | 乙 A B                |
|  | 10  | 10 唱ヘケル   | 乙 A B                |
|  | 11  | 11 弟子     | 乙 A B C              |
|  | 四〇一 | 1 此事ヲサヘ   | 乙 A B C              |
|  | 3   | 3 家主ノ女ヲ   | 北乙 A B C             |
|  | 3   | 3 死候トナムトス | 北乙 B (Bの候は変)         |
|  | 8   | 8 麝香      | 乙 A B C              |
|  | 8   | 8 香匂ニ満タリ  | 乙 A B                |

- 9 見エケレハ 底野乙ABC (底野乙ACはエ)
- 10 額ニ宛テ ABC
- 12 □上座 諸大
- 12 其二有ケルニナム 諸(Bの二有は変)
- 卷十五第四十二話
- 四〇二 7 行タリケルニ 実国野乙ABC
- 9 味モ失テソ有ケル BC
- 12 弘徽殿ニ 「弘徽殿ニ」乙BC (AC以外の徽は徽の異体)
- 12 装束□ヨカニテ 諸大
- 17 土御門ヨリ 諸大「大御門ヨリ」底 諸本により訂。
- 四〇三 6 立テリ 諸大
- 9 見給ヒケル 乙ABC
- 11 極テ泣ク 乙AB
- 13 忿テ、 底北実国野大「忿テ」B「急テ」AC「怠テ、」乙
- 14 態セサセ給ヘルトテ 北実国野乙C
- 17 御スルソト 乙AC
- 四〇四 2 昔ハ契キ 底乙ABC (底はキの次にリ朱補)
- 2 中ノ風ニト 乙ABC (Bの風は変)

巻十五第四十三話

|  |     |    |           |                                 |
|--|-----|----|-----------|---------------------------------|
|  | 四〇四 | 10 | 丹波中将ト     | 諸                               |
|  |     |    | 〔 〕入道     | 諸大                              |
|  |     | 12 | 鹿ヲ狩テ      | 乙 A B C                         |
|  |     | 15 | 提婆品ヲ      | 乙 A B C (Bの品は変)                 |
|  |     | 16 | 佛道        | 乙 A B C                         |
|  | 四〇五 | 3  | 佛前ニ       | 乙 A B C                         |
|  |     | 6  | 遅キト       | 諸 (底北実国野の遅は変 尸を尸・羊を并に作る)        |
|  |     | 6  | 戌時ニ       | 実国野 A B C                       |
|  |     | 6  | 早ウ失給ヒテキト  | 乙 A                             |
|  |     | 9  | 師ノ内大臣ト    | 底実国野 C                          |
|  |     | 9  | 放逸邪見ナル人ニテ | 乙 A B C                         |
|  |     | 12 | 極樂ニ生レムト   | 実国野乙 B Cは脱                      |
|  |     | 13 | 嘲ル間       | 実国野乙 A B C                      |
|  |     | 13 | 講宣        | 底実国乙 B (底は演と朱傍)                 |
|  |     | 13 | 有テ        | 諸大                              |
|  |     | 15 | 年老ニタリ     | 北実国野乙 A C 「年老ヒタリ」底大「年老テタリ」B     |
|  | 四〇六 | 2  | 得テキト宣ヒキ   | 乙 A B C 「得テキト宣ヒテ」底実国野大「得テト宣ヒテ」北 |
|  |     | 2  | 此ノ夢ヲ      | 乙 A B                           |
|  |     | 3  | 見タルハ      | 乙 A B C                         |

4 實也ケリト信シテ 実国野乙ABC

卷十五第四十四話

四〇六 9 越知

乙ABC

16 艶ヌ

諸大「艶ヌ」北B

卷十五第四十五話

四〇七 10 十頭ハ

乙ABC

13 人ノ物ヲ

諸大「人ノ物ヲ」A

13 亦多アリ

乙AC

15 云テ

諸大「ト云テ」乙 AC両本は脱。

卷十五第四十六話

四〇八 5 □ 郡ニ

諸大

5 被恐テ

諸

7 悩ミ煩テ

実国野乙ABC

9 持経者リ

乙B

14 冥道ス

B

四〇九 3 語り云ク

諸大 尋常の表現は「語りテ云ク」。

卷十五第四十七話

四〇九 11 □ 国ニ

□ 国ニ 大 諸本欠字。

11 一ノ人

底乙 A B C

12 □ 年来ヲ

諸大

12 罪ヲ造ル人ハ

乙 A B C

17 制セシテ

乙 B

四一〇 2 云フ事

乙 B

6 唱フルニ

北乙 A B C

卷十五第四十八話

四一一 4 妻亦

諸

6 挟キ

底実国 A

7 底ニ

諸大 「底ヲ」 A C

卷十五第四十九話

四一二 1 □ 僧トシテ

諸大

2 智リ明ケリ

乙 A B

5 黄眠

諸大 「黄昏」 C

10 微妙ノ

北野乙 A B C

10 極樂ノ往生

諸

卷十五第五十話

四一三 2 人此ノ事ヲ聞キ

3 近付ニケリ

乙 A B  
B

卷十五第五十一話

四一三 11 「脱」道心

12 勤ケル様ニ

17 皆是ヲ歎テ

四一四 3 不見エヌ

「今昔、伊勢ノ國、飯高ノ郡、  
□ノ郷ニ一人ノ老タル嫗有ケリ。」道心」大  
諸大

B 「皆是ヲ歎キ」底北大「皆是ヲ難テ」実国野乙C

諸 「不見エ」 A 「不見エヌ」 B 「不見」 C

卷十五第五十二話

四一四 7 □ノ郡

7 □郷ニ

17 真ニシテ

四一五 10 靡テソ有ケリ

11 聞キ継モ

13 傳ヘフルヲ

諸大

「真ニシテ」底北実国野乙B（真は変 下部は大）

乙 A B C

底北乙 A B C 大「聞キ継シ」実国

諸大「伝フルヲ」 A C

卷十五第五十三話

四一五 17 □ノ郷ニ

諸大

四一六 4 此如クシテ 底北乙ABC大(底Bは顛倒符を附す)「此ノ如クシテ」実国野

巻十五第五十四話

四一六 12 令菊メ 諸大 彦諸本の字体は草冠十列。

13 今弃ユル 乙B

14 着セリ仕ヒケル B

16 鳴ハ瀧ト 乙ABC

17 蘆 「蘆」大 AC二本以外、かく作る。正字は「蘆」。

四一七 1 此ノ童ヲ 乙B

3 然乍ラ有テ 乙ABC

4 寄異フ 大

6 願ケルヤ 諸大 北本の朱傍「願ケルニヤ」。

6 申シケルナメル 乙ABC

8 死ヌルハ 乙AC 「死ヌレハ」底北実国野 「死スルハ」B

おわりに

『今昔物語』巻十五の本文の異同を見ると、流布本系諸本(内閣文庫本ABC、東大本乙)と一致する箇所が多い。また、これまでの巻では、内閣文庫本Bの表現が彦根城博物館本の表現と一致する箇所が多く、それは、空白などの形式<sup>(1)</sup>と同じ傾向にあったが、巻十五の場合は、脱文(四一三11)も含め、必ずしもB本と一致するわけではなかった。<sup>(2)</sup>

また、巻十四において、古本系とされる実践女子大本、國學院大本、野村本については、できるだけ意味を通じさせようとする意識があることを指摘したが、巻十五においてはそうした明確な傾向は浮かびあがってはこなかった。彦根城博物館本は、流布本系の表現に基本的に沿いながらも、古本系と流布本系の双方に合致する表記も多く、巻十五の場合、固有名詞については巻四、巻五、巻七とは異なり、流布本系の校訂後の正しい固有名詞を用いている（三六九四「賀古」）場合もある。また、一方で、巻四、巻五、巻七と同様、古態本系に即している場合（三六九四「幡磨」）もある。また、「加賀国」（三八五15）が古態本の東北大本と流布本（乙、A、B、C）に見られ、「賀加国」が古態本の東大本甲、実践女子大本、國學院大本、野村本に見られるといった古本系と流布本系に分けられない場合には、「加賀国」という正しい表記が選択されている。彦根城博物館本が古態本と流布本の両本の系統を見ることができ、環境にあったとすれば、古語としての漢字の表記には忠実でありながらも、順序の入れ替えのような明らかな誤謬については、訂正するという意識があったと考えることができようか。

ひき続き、他の巻においても、そうした表記の意識の在り方について検討を加えていき、彦根城博物館本の諸本における位置づけを明らかとしたい。

### 注

- (1) 中根「未紹介本『今昔物語』（彦根博物館所蔵）についての一考察」（愛知県立大学説林）53号 二〇〇五年三月
- (2) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻一の本文の位置づけ」（愛知県立大学文学部論集）54号 二〇〇六年三月
- (3) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻二の本文の位置づけ」（愛知県立大学文学部論集）55号 二〇〇七年三月
- (4) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻五の本文の位置づけ」（愛知県立大学日本文化学部論集）1号 二〇一〇年三月、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻七の本文の位置づけ」（愛知県立大学日本文化学部論集）3号 二〇一二年三月、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻九の本文の位置づけ」（愛知県立大学日本文化学部論集）4号 二〇一三年三月
- (5) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻三の本文の位置づけ」（愛知県立大学文学部論集）56号 二〇〇八年三月、中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻九の本文の位置づけ」（愛知県立大学文学部論集）4号 二〇一三年三月



博物館所蔵『今昔物語』巻六の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 2号 二〇一一年三月、中根「彦根城博物館所蔵

『今昔物語』巻十の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 5号 二〇一四年三月)

(6) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻四の本文の位置づけ」(愛知県立大学文学部論集) 57号 二〇〇九年三月)

(7) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十一の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 6号 二〇一五年三月)

(8) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十二の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 7号 二〇一六年三月)

(9) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十三の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 8号 二〇一七年三月)

(10) 中根「彦根城博物館所蔵『今昔物語』巻十三の本文の位置づけ」(愛知県立大学日本文化学部論集) 9号 二〇一八年三月)

(11) (1)に同じ。

(12) 巻十五の脱文については、岩瀬文庫本と蓬左文庫本に同箇所の脱文が見られる。

(13) (10)に同じ。